

# Vine



特集1

## 未来を切り拓く子どもたちのために

～地域に根差した教育学部の教員養成～

特集2

## 梨大から世界へ、世界から梨大へ!

～国際交流センターの紹介～

[人物発掘] 山梨大学大学院総合研究部生命環境学域/附属ワイン科学研究センター・エクステンション部門 横森洋一特任教授

[ゼミ紹介] 教育学部芸術身体教育コース保健体育系 金澤研究室

[ぴっくあっぷレッスン] 実験医学

[クローズアップび〜ぶる] 渡邊 心人(工学部機械工学科3年)/近藤 梢(生命環境学部地域食物科学科ワイン科学特別コース4年)

[サークル紹介] 裏千家茶道部/山梨大学馬術部/医学部卓球部/IFMSA-Yamanashi



# 未来を切り拓く子どもたちのために

## ～地域に根差した教育学部の教員養成～

山梨大学教育学部は、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の教員を養成する学部です。近年、社会の大きな変容に伴い学校現場の教育課題も複雑化、多様化しています。こうした変化に対し本学は、教員に求められる幅広い教養と専門性を身につけられるよう多様なカリキュラムを提供しています。ここでは、2021年4月に導入した山梨県小学校教員養成特別教育プログラムをご紹介しますほか、教育学部の教員養成の特色、魅力をお伝えします。

### 2021年度導入 山梨県小学校教員養成特別教育プログラム(徽典館プログラム)とは?

山梨大学教育学部では、令和3年度入試から、山梨県の小学校教員を志望する受験生を対象とした「山梨県の小学校教員志望者推薦入試」を実施し、それによる入学者を対象に同年度から「山梨県小学校教員養成特別教育プログラム(通称:徽典館プログラム)」を開始しました。

#### PICK UP! 徽典館(きてんかん)とは?

徽典館は、江戸時代の真っただ中の1796年に設置された昌平坂学問所の甲府分校で、山梨大学教育学部のルーツです。

「人を育てる」という今と変わらぬ使命は200年以上が経った今でも受け継がれています。



1876年頃の徽典館の校舎

このプログラムでは、山梨県の教育課題を広い視野から探究します。

具体的には、

- 1) 山梨県教育委員会と連携して県内の教育事情を学びます。
- 2) 「書く」「話す」という他者に伝えるための基礎的なスキルを、実践活動を通じて向上させます。
- 3) 小学生のこころとからだの発達についての専門性を高めます。
- 4) 理論と実践をつなぐためのデータリテラシーとICTを身につけます。
- 5) グローバルな視点やダイバーシティの視点の重要性を学びます。

こうした探究活動の機会を提供することで、新しい時代の山梨県の教育を支える教員を養成することを目指しています。



附属小学校を訪れ、授業を観察する様子(教育フィールド体験I)



講義の様子(学部入門ゼミ)



### 徽典館プログラムの専門科目

#### 小学校教育の現代的課題に関する科目

- ・小学校教師論
- ・子どもの育ちと校種間連携
- ・小学生のこころの発達
- ・小学生の運動発達
- ・デジタル教材の開発
- ・教育データの分析法
- ・学校外体験実習
- ・海外学校観察実習

#### 地域実践対応科目

- ・教育フィールド体験I・II
- ・山梨の教育事情
- ・地域素材の教材化
- ・小学校における多文化共生

#### 課題研究

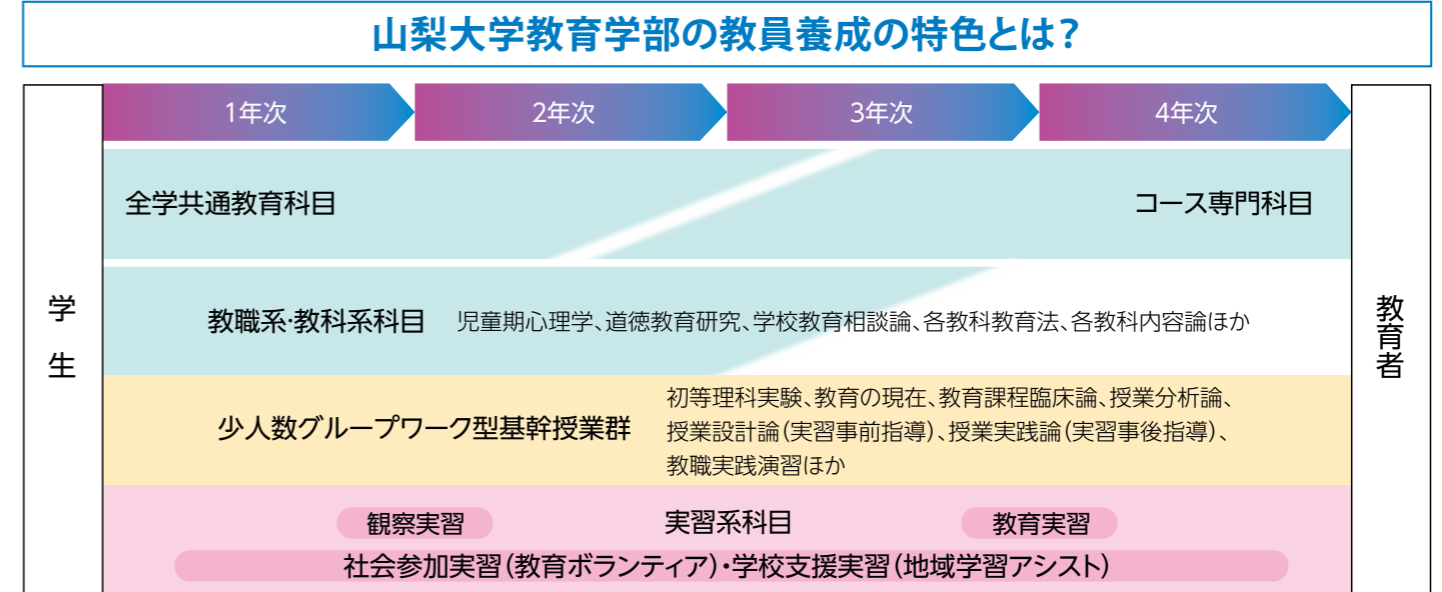
- ・研究方法論
- ・ゼミナールI・II

### 教育学部言語教育コース(徽典館プログラム)1年

#### 林田 俊さん

小学校教師を目指したのは、6年間で著しく成長する児童を一番近くで見守り、一緒に成長したいと思ったからです。また、生まれ育った山梨県に貢献したいと考えていたので、山梨県の教育方針に合った小学校教員養成プログラムである、徽典館プログラムに進学しました。

今は、「学部入門ゼミ」と「教育フィールド体験I」を受講しています。「教育フィールド体験I」では附属小学校で自分の研究テーマに沿って、児童を観察しています。私は、授業形態によって異なる児童の集中力について研究しています。児童の少しの変化にも気付けるように観察して分析する難しさはありますが、1年次から児童と関われる授業があるのはモチベーションに繋がりますし、今までにない授業を受講できるのはとても楽しいです。



#### ●● 少人数授業

教員と各学年の学生の比率がおよそ1:1.3の教育学部は、様々な学問分野の教員が豊富な専門科目を提供し、少人数できめ細やかな授業を実施しています。

#### ●● 教育ボランティア

教員を目指す学生による小・中学校等の支援を通じて、児童生徒の学力を向上させるとともに、教員を目指す学生の学びを深めるために、本学では教育ボランティア活動を実施しています。活動は、学習支援のほかにも学校行事・部活動の指導補助、障害のある児童生徒の支援、不登校児童生徒の支援など幅広いものとなっています。

また、この教育ボランティア活動は社会参加実習として単位化されています。



教育学部  
マスコットキャラクター  
梨子ちゃん

教員採用試験に合格した9割の学生は、教育ボランティアに参加しているよ!

#### ●● 教育実習

教育実習へのゆるやかな導入として、2年次に先輩の教育実習の様子を観る「観察実習」があり、教育実習の具体的なイメージをつかみ、3年次に実習を行います。

#### ●● 地域学習アシスト

教育ボランティア活動の発展形の活動として、令和元年度からスタートした本学独自の取組です。学生、大学教員、学校がともに学校現場の課題を共有し、チームカンファレンスを通じてより良い支援のあり方を探り、今日的課題の解決に取り組みます。



学部長

学部教員

### 教育学部言語教育コース3年 岩本 椎菜さん

3年次の教育実習までの準備として、子どもたちと関わることができる教育ボランティア活動に1年次から参加しました。2年次の1年間は、昭和町立押原中学校で1年生の授業や部活動の支援、帰りの会の指導をしました。先生の授業の仕方や生徒への接し方などを間近で観察したり、理解に時間を要する生徒を実際に教えたりする中で生徒の成長を見ることができたのは嬉しかったです。

週1回の教育ボランティアでしたが、意欲的に生徒に声をかけることで生徒との距離が縮まることを肌で感じました。生徒一人ひとりと関わることの大切さや、視野を広く持ってクラス全体をバランスよく見ることの重要性にも気づきました。何よりも、生徒と触れ合うことができたことが楽しく、教師になりたいと再認識しました。

今は、附属中学校で教育実習をしています。公立中学校とは教育に対するアプローチが違い、戸惑いはありますが、経験と学びをより一層深めていきたいです。



教育ボランティアの様子

# 梨大から世界へ、世界から梨大へ～国際交流センターの紹介～

山梨大学では、人やモノ、情報の世界的なボーダレス化と、それに伴う日本の産業界や社会におけるグローバル化、多文化化の時代に生きる人材の育成のため、これまでの留学生センターの役割を発展させ、2014年に国際交流センターを設置

しました。同センターでは、学生の海外派遣や海外からの留学生受け入れ、学内外の国際交流活動などに力を入れています。今回の特集では、本学で経験できる「海外研修・留学」と「学内留学」の一部を紹介します。

## 学内留学とは？

～グローバル共創学習室(G-フィロス)での異文化交流～

いきなり海外に行くのはハードルが高い…。そんな学生のために、海外からの留学生と一緒にキャンパス内で学べるスペースが山梨大学にはあります！

### ●G-フィロスってなに？

甲府東キャンパスB-1号館にある、留学生と日本人学生がお互いの文化や言葉について学び合うユニークな学習環境スペースのことです。英字新聞や試験対策本の閲覧や映画コンテンツを鑑賞でき

るほか、異文化交流イベントを開催しています。また、英会話を楽しむEnglish Café & Supportが開かれ、各国の学生で賑わっています。



### ●English Café & Support

英語に親しみながら英会話力やコミュニケーション能力を向上させることを目的に、月曜日から金曜日までの昼休みの時間にEnglish Caféを、16時半から19時にEnglish Supportをそれぞれ開催しています。  
※現在はオンラインで開催中



### ●Holiday Party

毎年12月にHoliday Partyを開催しています。留学生による自国の文化についてのプレゼンテーションや、各国の言語を使用したゲームなどが行われます。楽しく参加しているうちに異文化への理解が深まっています。



G-フィロス

## BATCHULUUN BATTUSHIG (バトチュルーン バットシグ)さん

工学部機械工学科4年(モンゴル出身)

幼少期に日本に住んでいたこともあり、大学は日本の大学に行こうと決めていました。山梨大学では、機械工学を専攻しており、人口衛星の姿勢制御について学んでいます。G-フィロスでは、月曜日から金曜日まで開催されるEnglish CaféとEnglish Supportに留学生SA(学生アシスタント)として参加しています。会話が弾むような話題を振るなど、英語が苦手な人も英会話を楽にするようにサポートしています。参加する学生は英語の得意・不得意に関わらず、積極的に英語で話してどんどん上達しています！

G-フィロスで知り合って仲良くなった学生と放課後にご飯を食べに行ったり、休日にドライブに行ったり交友関係も広がりました。

英語や海外に興味がある皆さんをG-フィロスでお待ちしています！



## 山梨大学で実施している海外留学プログラムとは？

海外研修・留学は、「語学力」や「異文化理解力」だけではなく、「挑戦する力」や「コミュニケーション能力」、「積極性」などこれから必要とされる人材にとって必要な力を伸ばしてくれる貴重な経験となります。本学には、海外研修プログラムや交換留学など独自の留学プログラムがあります。

### ●海外研修プログラム(2週間～5週間)

春季および夏季休業中に語学学習や異文化交流を含んだ海外研修プログラムを実施しています。現地企業等での職業体験が含まれているプログラムもあります。語学力を伸ばしたい、異文化を体験したい、交換留学の前段階として「留学」や「海外生活」を体験してみたいという学生におすすめのプログラムです。

### ●交換留学(半年～1年間)

本学の海外交流協定大学で交換留学生として外国語で専門科目を学ぶ制度です。参加学生は、本学に在籍したまま留学先の大学の授業を受講し、本学の修得単位として振替えることもできます。海外で生活してみたい、飛躍的に語学力を向上させたい、海外の学生と一緒に専門分野を学びたい、留学経験を将来に活かしたいという学生におすすめのプログラムです。

### 海外研修 英国 レスター大学 英語・文化研修 加藤涼子さん(教育学部言語教育コース3年)

レスター大学を選んだのは、全日程でホームステイができ、週末にロンドンやケンブリッジへ研修旅行ができるからです。ホームステイでは、大学で勉強をして帰るとホストファミリーが家で待っていてくれて、イギリスの家庭料理や家族団らんの会話を一緒に楽しみました。ホストファミリーは本当に優しく、私の英語を忍耐強く聞いてくれました。英語の授業では、グループごとにテーマを決めてプレゼンテーションを行いました。私たちのグループのテーマは「車」で、現地の方に車を使用する頻度などいくつか質問し、イギリスの公共交通機関の良さや不便ななどをまとめて発表しました。現地の方に話しかけるのは緊張しましたが、とてもいい経験になりました。



### 海外研修 米国 ノーザン・アイオワ大学 英語・文化研修 小見山朋子さん(修士課程工学専攻 1年)

社会に出る前に海外留学しようと考えていました。交換留学にも興味はありましたが、予定通りに大学を4年間で卒業したかったため海外研修プログラムを選びました。各国からの留学生が受講する英語の授業に加えて、インターンシップやホームステイなどがプログラムに組み込まれていたため、実践的に英語を学ぶことができました。そのおかげで英語への苦手意識が消え、今では、英語の論文や文献を読みながら量子コンピューティングの研究を進めています。



### 交換留学 米国 イースタン・ケンタッキー大学 交換留学 田中広海さん(修士課程生命環境学専攻 1年)

入学する前から留学をしようと思っていました。1年間の留学に挑戦する前に、イースタン・ケンタッキー大学の海外研修プログラムに参加しました。渡航への不安もなくなりましたし、海外研修プログラムで心残りだったことを交換留学で実現できたので充実した留学生活が送れました。授業は専攻である生物の授業や日本の大学では扱われることの少ないジェンダーの授業を受講しました。英語での授業に少し戸惑いましたが、先生や友人の助けもあり、楽しく学ぶことができました。長期休暇に仲良くなった現地の友人の家にホームステイをしたことは忘れられない思い出です。



山梨大学には、海外研修・留学に参加する意欲がある学生をサポートする奨学金制度があります。条件を満たす学生は奨学金を受給して渡航することができます。留学には準備期間が必要です。留学に関心を持ち始めたら、国際企画課まで相談に来てください！

人物  
発掘



山梨大学大学院総合研究部生命環境学域/  
附属ワイン科学研究センター・エクステンション部門

# 横森洋一 特任教授

70年以上の歴史を誇るワイナリーで、研究者、醸造者として活躍した後、母校でもある山梨大学に帰還し、新たなミッションに挑む、横森洋一特任教授。静かな語り口の中にも、地元産ワインに寄せる熱い思いが感じられます。

山梨大学ワイン科学研究センター地下にあるワイン貯蔵庫にて撮影

## サッカー、そして剣道と、スポーツに夢中だった少年時代

私は、1959年甲府市太田町で生まれました。実家は市立動物園のすぐ裏にあり、夕方になると鳥や動物の鳴き声が聞こえたものです。小さい頃からサッカーが好きで、中学時代はサッカー部で部活漬けの3年間を過ごしました。高校は、甲府から小諸まで夜通し歩く強行遠足に魅力を感じて甲府第一高等学校へ進みました。当時は総合選抜でしたから、希望が通ったのは幸運でした。

高校では、入学直後の部活動巡りで剣道場を通りかかったとき、ふと「日本の伝統文化を体験してみるのもいいな」と思ったことから剣道部に入部しました。これが、今に続く剣道との出会いです。もちろん、強行遠足も良い思い出です。当時は、午後2時に学校を一齐に出発し、翌日の正午までに長野県の小諸駅を目指すというもので、最初は仲間と一緒に歩き出すものの次第にバラバラになっていきます。それでも周囲には一高生がいるので不安はなく、普段はあまり話さない先輩や後輩、同級生とも声を掛け合い、励まし合って歩くのはとても楽しかった。3年間、完走できたことも心に残っています。

## 一浪を経て 山梨大学発酵生産学科へ

生物や植物に興味があったことから県外の農学部を目指したのですが、玉砕。浪人中に、地元産ブドウを使ったワインや微生物の研究ができる発酵生産学科が山梨大学にあると知り、在学中にお酒を造れることにも惹かれて進学しました。

相変わらず剣道に夢中で、大学でも剣道部で研鑽を積む日々を過ごしました。印象に残っている講義と言えば、酵母や細菌をプレートで培養し、形態を観察したり、顕微鏡で細胞を見たりする「微生物実習」でしょうか。若き日の早川正幸先生(山梨県立大学理事長・学長)の丁寧なご指導のもと微生物の面白さが一気に開花し、研究の楽しさに目覚めました。4年次の研究室配属では、酵母の研究



ほぼ毎日、道場で汗を流していた山梨大学剣道部時代

をしている後藤昭二先生の研究室を希望しました。最大の動機は、ワインの仕込みや官能評価を含め一からワインを勉強できること。学生時代にこうした経験ができたことは非常に幸運でした。また、ワインの発酵段階で微生物がどのように変化していくかという研究にも取り組みました。実験は試行錯誤の連続でしたが、その過程で微生物への興味がより深まってきました。分類同定の大家である後藤先生に直接ご指導いただけたことは大きな財産です。先生から直接購入した著書「酵母の分類同定法」は、卒後40年以上経た今も私のバイブルです。



バイブルでもある恩師の著書

## 県内のワイナリーに就職 研究を続け、博士号を取得

卒業後は、山梨市にあるワイナリー「サントネージュ」に就職しました。当時は研究部門がなく、品質管理の一環として、酵母を培養したり発酵中のもろみを調べたりしていたのですが、入社3年目に国税庁醸造試験所で1年間研修をさせてもらえることになりました。そこには全国の酒



サントネージュワイン株式会社では、商品技術開発部長、醸造部長などを歴任 31歳のときにオーストラリアのワイン研究機関「The Australian Wine Research Institute(AWRI)」へ出向

造メーカーから醸造技術者の方が研修に連れて来て、現在も活発にワインの啓もう活動などに取り組まれている戸塚昭室長のもとで、切磋琢磨したものです。研修期間中、私は、キラー物質を生成して他の酵母を殺し自分が繁殖していくキラー酵母を研究テーマとしており、それが、後にサントネージュで行った、新規のキラー酵母を見つけてその性質を調べるという研究と博士論文につながり、29歳で博士号を取得するきっかけにもなりました。

1990年から1年間は、オーストラリアのワイン研究機関に出向しました。海外のワイナリーの一員としてワイン醸造も体験できた、貴重な時間となりました。

帰国後は、開発部門に所属し、製品や技術の開発に取り組むようになりました。そのころ開発した商品の一つが濁りワイン。当時の濁りワインは置いておくと透明な液体とオリが分離してしまい、それが苦情の原因になったりもしていたので、濁った状態をキープできるワインを造ろうということで開発しました。また、シャーベット状に凍らせて美味しく食べられる凍結ワインも作りました。暑い夏においしく召し上がっていただけるということで、よく売れたんですよ。

## 新たな挑戦は、ワインへの恩返し

60歳で定年を迎えたのを機に、新たなチャレンジをすることにしました。それが、現在の山梨大学での活動です。所属するエクステンション部門は、企業と連携しつつ、今ある課題の解決や新たな技術の開発に取り組む比較的新しい部門です。私は、ワインをより広く深く理解してもらうためのセミナーの講師を務めたり、ワイン酒造組合と連携して地場産ワインの品質向上に向けた活動を行ったりしてい

ます。就任して1年。まだまだ道半ばですが、これまでの知見や経験を活かし、今までは違う立場で日本のワインに貢献していきたいと思っています。



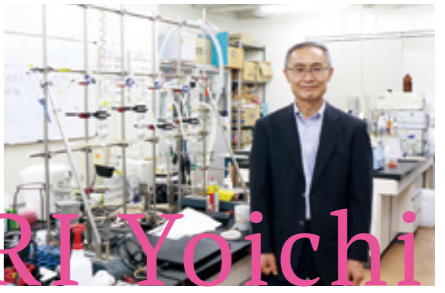
県産ワインの品質向上を目指す取り組みの一環として、地元ワイナリーより委託されたワインを分析

ところでワイン科学は、一言でいえばワイン造りの目に見えないところで起こっている現象を科学的に解明していくというもの。新しい何かを発見できたときには非常に大きなやりがいを感じますし、その成果を実際のワイン造りに直接応用できることも研究者の励みとなります。さらに言えば、研究結果を飲んで味わえるというのは、ワイン特有の面白さであり魅力でもあります。ゆくゆくは地域の活性化にもつながる研究分野ですので、ぜひ多くの学生に知ってもらい、興味を持って挑戦してもらえたら嬉しいですね。

TV会議システムが普及し、世界中の研究者と、気軽に意見交換ができ、学会もリモートで開催される時代。大学選びでも、遠くばかりではなく、身近なところへも目を向けてほしいですね。求める学びの場は、皆さんのすぐ近くにあるかもしれませんよ。

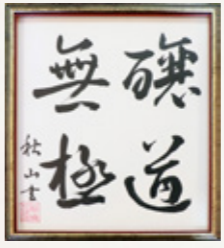


【専門分野】 ワイン酵母、ワイン製造  
【学位】 農学博士(東京大学/1988年)  
【略歴】  
1959年 山梨県甲府市生まれ  
1977年 山梨県立甲府第一高等学校卒業  
1982年 山梨大学工学部発酵生産学科卒業  
1982年 サントネージュワイン株式会社入社  
2020年 山梨大学特任教授



# YOKOMORI Yoichi

## 私の宝物 恩師から贈られた「醸道無極」の額



オーストラリアに出向する際に、ご指導を賜った秋山裕一先生(日本酒研究の大家/元国税庁醸造研究所所長、醸造学会会長)からいただいた自筆の書です。書かれている「醸道無極」は、「お酒を追求する道に国境はない」という意で、「垣根なく存分に勉強してきなさい」というメッセージも込められています。私は今も部屋に飾り、日々の励みにしています。

# 「すべての子どもに体を動かす楽しさを」

私の研究室では、主に小学校や中学校をフィールドにしながら体育科・保健体育科の授業に関する研究をしています。

日本学術会議の提言によれば、毎年実施されている体力・運動能力調査の結果から子どもの体力・運動能力は、1985年を境にして低下傾向にあると指摘されています。体力・運動能力の低下は、ケガや事故の危険性が高まるといった指摘や幼少期に必要な運動量や強度を確保できないことが、壮年期以降における病気への罹患や転倒・骨折による寝たきり状態につながるという指摘がされています。このような体力・運動能力の低下の要因として生活習慣の変化や時間・空間・仲間の3つの間の減少などがあげられており、学校教育における体育授業の重要性が指摘されています。こうした背景から私の研究室では、これまで2つの視点で研究をしてきました。

1つ目は、体育授業における授業作りに関する研究です。学習指導要領に記載されている「ボールを持たない動き」を効率的な習得を目指した教材を作成し、小学校・中学校でそれぞれ検証を行いました。また前記のように体力・運動能力の低下が問題となっており、特に走能力や投能力は低下が顕著であることが明らかになっています。そこで、走能力を高めるための教材として、体育授業の準備運動として音楽を用いた短時間で行うことができる教材を開発し、小学校で検証を行いました。さらに、現在附属小学校と連携し投能力向上のための教材開発とその実践を行っています。

2つ目は、体育授業を行う教員に関する研究です。日本学術会議の提言においても、小学校教員の多くが「指導に自信がない」と述べており、授業を行う教員についても注目する必要があると考えています。まずは、教員養成という側面では、教育実習生を対象にした調査を行いました。



2021年度は内地留学生として県内の先生(一番右)とも研究しています。

ゼミでは、体育授業の実践について学び、実際の授業場面で活用できる力を身につけることを目標としています。



これまでの研究では、教育実習を経験することで体育授業の行い方を学び、円滑に授業運営できるようになると

他の研究室と協力しながら予備実験の最中です。

言われていました。しかし、私たちは、これらの報告について対象とした教育実習生の人数が少なくデータに偏りがあるように思いました。そこで、2年間分の実習生の映像を撮影し、教育実習での経験によって授業運営の変容について調査しました。また、教員採用試験に合格をしている学生に対してインタビューを行い、赴任後の1年間体育授業についてインタビュー調査を継続的にを行い、体育授業に関する意識の変容について調査しました。

コロナ禍になり家で過ごす時間が増えたことで、運動やスポーツをする場面は多くありません。このような状況でも「多くの子どもたちが運動やスポーツに楽しむための一助になれば良いな」という願いで、日々研究をしています。

研究室に関連したサイト：  
<http://www.icre.yamanashi.ac.jp/>  
<https://www.facebook.com/ICRE.UY>  
<https://www.ev.yamanashi.ac.jp/sidebar/introduction>  
<https://miraibook.jp/researcher/2120>

## ぴっくあっぷレッスン 授業のヒトコマ

31

# 実験医学

【担当教員】総合分析実験センター

機能解析分野/北間 敏弘 准教授、瀬川 高弘 講師、杉浦 篤志 助教  
 資源開発分野/兼平 雅彦 准教授、長友 啓明 講師、伊藤 禎洋 助教  
 放射線分野/秋山 真治 教授(総合医科学センター)

実験医学は、基礎医学系の講義が行われる医学科2年次(今年度からは1年次)を対象とした講義で、研究・教育活動を支援する共同利用施設・総合分析実験センターの教員が主に担当しています。聞き慣れない講義科目名かも知れませんが、いわゆる解剖学、生化学、生理学etc.のような系統的に行われる講義と異なり、各担当教員がオムニバス形式で各々の専門分野、興味ある分野の研究の観点から医学的知識を学ぶことを目指しています。医学科のディプロマポリシーには、「医学知識と問題対応能力」とともに、「生命科学や医療技術の成果を生業を通じて学び、病因や病態を解明する等の医学研究への志向を涵養できる」という項目が掲げられています。医学科のライフサイエンスコースに所属して早期から研究に取り組む学生はもちろんですが、コースに所属しない場合でも将来的にはほとんどの学生が臨床と併行して大学院課程や留学などを通してまさに、病因や病態を解明する等の医学・生物学的研究を行うことになるでしょう。その研究活動にあたっておそらく頻繁に関わることになるのが、総合分析実験センターなのです。実験医学は、学生に将来的にどのような医学研究の道があるのかを幅広く紹介して、早い段階から広い視点と興味をもってほしいという思いで、各教員が担当しています。



「ゲノム情報解析」瀬川 講師



「実験機器・設備」杉浦 助教



「実験動物」兼平 准教授



「遺伝子組換え動物」長友 講師

具体的には、ライフサイエンス研究に欠かせない遺伝子組換え動物等を用いる手技と研究の実際、センターで実際に管理し共同利用に供している蛍光・共焦点顕微鏡、分光光度計、フローサイトメータの原理・用途やバイオセーフティーレベルなど、また、理学・工学分野との融合技術としての検査・診断・治療等に関わる医用生体工学技術や数理モデル等の概要を学びます。特に、動物実験については、医学・生物学的研究と関わりが深いにもかかわらず、系統講義のカリキュラムには含まれない項目ですので、動物実験の基本から大切な倫理・法規に至るまでバランスよく配置しています。また、今年度からは、対象が1年次生となり、講義内容にバイオインフォマティクス技術の基本とゲノム医学分野の概説を加えて、新たに「実験医学・生命情報」の形でスタートします。



講義風景



それぞれの学問的知識を体系的に解説する講義とは異なりますが、それらの知識に触れつつ、新たな知識の獲得とともに幅広く基礎・臨床医学研究との関わりが学べることを目指しています。学生の皆さんが興味をもって学べるよう、画像や動画を多く用いるよう工夫しています。それまで学んできたものと違う



「医用生体工学技術」北間 准教授

視点や知識を養って、各々の進む分野においてグローバルに活躍する人材になるよう、微力ながら貢献していきたいと思っています。

## 機械工学科に 入学した理由は?

もともと理系科目が得意だったので、それを活かせる進路を考えていました。機械工学科は、機械工学の基礎知識をはじめとして航空・動力エネルギー・ロボットなど様々な分野の先端技術を学ぶことができるので、在籍している間に興味を持てる分野を見つけられると思い進学しました。今は自動車産業に興味を持っています。

## 山梨大学の魅力は 何だと思えますか?

他大学と比べると学生数など規模が小さいので、その分コミュニティが密接なことでしょうか。例えば友達の友達ともすぐ仲良くなれるなど、交友関係が広がりやすいことが魅力だと思います。

勉強面で言うと、工学部にはものづくり教育実践センターなどをはじめとしたさまざまな設備・施設が構内に揃っており、学生実験や技術実習のカリキュラムが豊富なことが魅力だと思います。

## コロナ禍での大学生活は どのようなものですか

私は今年3年次生ですが、ちょうど大学や新生活にも慣れてきた2年次の春ごろからオンライン授業などがスタートしました。正直に



長野県にスノーボ旅行!



春休みに群馬県草津を満喫



日の出を見に早朝ドライブ

言うとやりづらさはありませんでしたが、だからと言って勉強がおろそかにならないように気を付けました。具体的には、わからないところをきちんとピックアップして、教員に連絡を取りしっかり訊くことですね。今までであればたまたま学内で遭遇したときなどに疑問点を尋ねることができず、今の状況ではそうはいかないので、そこは意識しています。また、コロナ禍の中でも生活リズムが崩れないように朝の起床時間を完全に固定するなど生活にメリハリをつけるようになりました。



地元・富士吉田市の自慢の景色

## 勉強以外で 力を入れていることは?

色々なアルバイトに精を出しています。高校の時までは勉強一筋だったので、大学生になって自由に使える時間が増えてからは、倉庫整理・ファミリーレストランのホールスタッフ・県内の観光地でのリゾートバイト・ヴァンフォーレ甲府(山梨県のプロサッカーチーム)のイベントスタッフなど、全て同時に掛け持ちしてきたわけではないですが様々なアルバイトを経験しました。

お金を稼ぐ大変さも身に沁みましたし、何よりお客様や目上の方とのコミュニケーションによって、正しい敬語や言葉遣いを意識するようになりました。

## 受験生にアドバイスを!

私もそうだったのですが、受験勉強を続けていると勉強をしているのに成績が伸びない時期に差し掛かることがあります。焦ったり、不安な気持ちになったりすると思いますが、成績は徐々に上がるのではなく、勉強を続けていったある日を境に一気に上がります。

夏から秋ごろの時期であれば、慌てて難しい応用問題に手を出したりせず、基礎的な問題を繰り返し解いて地力を蓄えるのが大切だと思います!

## 地域食物科学科 (ワイン科学特別コース)へ 進学した理由は?

もともと農学系の学部への進学を希望していたので、志望校を決めているときに山梨大学の地域食物科学科にワイン科学特別コースがあることを知り、日本で唯一ワイン科学を専門に学ぶことに興味を持ったことがきっかけで進学を決めました。

## 今学んでいることを 教えてください!

ワイン科学研究センターの中でも発酵微生物を専門としている柳田藤寿教授の研究室で、ぶどうを発酵させてワインを作り出す酵母に関する研究をしています。ブドウ畑の土と果実から酵母を分離してどんな酵母があるかを調べ、その酵母に地域性があるのか探ったり、またそこから日本の風土などを読み解いたりというのが私の研究テーマです。今までにない新たな酵母が発見できるかもしれない?!と毎日ワクワクしながら研究に取り組んでいます。

ワイン科学特別コースではワイナリーでのインターンシップが卒業必修科目になっていて、私は2年次の夏休みに実施しました。インターン先の県内のワイナリーでは、ワイン醸造には欠かせない酵母のはたらきを改めて目の当たりにし、酵母に対する興味がより深まりました。



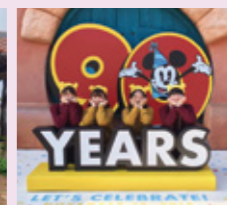
研究室のメンバーと



清里にソフトクリームを食べに行きました!



ルームメイトと沖縄旅行



学科の友人とディズニーランド

## 大学生活について 教えてください!

歌うことが好きなので、サークルは合唱団に所属しています。

合唱団では例年、年間数回の演奏会をしています。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、対面での演奏会ができない状況が続いています。しかし



合唱団のメンバーと



演奏会にて

「こんな時だからこそわたしたちの歌声をみんなに届けたい!」と思い、YouTubeで演奏を配信するようになりました。今までは演奏会に足を運んでもらうのが難しかった家族や地元の友達にも演奏を聴いてもらえるようになったので、この配信方法は今後も続けていきたいです。



学園祭では出店を出しました!

今は大学で会ったサークルの先輩と大学周辺のアパートでルームシェアをしています。コロナ禍で通学もままならず、友達にも会えない状況なので、ルームメイトが心の支えとなっています。外出があまりできない状況ですが、ルームメイトと時間をかけて手の込んだお料理をしたり、県内をドライブしたりと今だからできることを楽しんでいます。

## 今後の 進路は?

ワイン科学特別コースで学んでいますが、将来は高校生のころからの目標で

ある化粧品業界へ進み、酵母を利用した自然由来の肌に優しい基礎化粧品の開発に携わりたいと思っています。今後は大学院へ進学する予定なので、夢を実現するため更に研究を発展させたいと考えています。

## 受験生にアドバイスを!

大学受験では、反復学習が一番良いかと思います。受験生のときは、友達とお互いの得意な科目を教え合いながら、勉強することもありました。息抜きに友達とおしゃべりする時間も大切に!メリハリをつけながら、勉強をがんばってください!



勉強・課外活動に  
充実した大学生活!  
エンジニアを目指し頑張ります!

工学部機械工学科3年  
渡邊 心人  
(山梨県出身)

WATANABE HAATO

研究活動やサークル、プライベートにと輝く山梨大生を紹介します。

close-up people

クローズ  
アップ  
ぴ〜ぶる

新たな酵母の発見に  
ワクワクする毎日!  
夢の実現に向けて頑張ります!

生命環境学部地域食物科学科  
ワイン科学特別コース4年

近藤 梢  
(愛知県出身)

KONDO KOZUE

## Equestrian Club 山梨大学馬術部

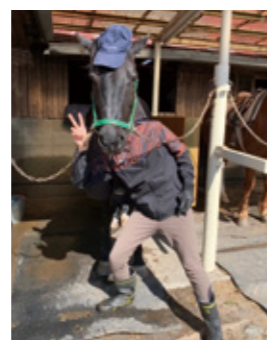
試合に向けて練習するのもよし! 馬とふれあうのもよし!  
馬術部ライフを味わってみませんか?

皆さんこんにちは!山梨大学馬術部です。馬術部は医学部と甲府キャンパスの両方の学生が所属できる唯一の部活であり、馬術は男女が一緒に競うことができる数少ないスポーツの一つです。何といても特徴は馬と共に競技に臨むこと。とても奥深いスポーツです!

それでは活動内容を紹介します。私たちは自然あふれる北杜市の牧場をお借りして、土日と長期休暇に活動を行っています。そこでは、人懐っこい馬から少しやんちゃな馬まで、

たくさんの馬と触れ合うことができ、馬と仲を深めながら乗馬技術を磨きます。

主に大会は春から秋にかけて開催され、下級生でも出場可能な大会もあります。大会の種目は、障害物を飛び越えながらコースを走り、精度やタイムを競う「障



馬とのじゃれ合い



大会の集合写真



牧場でバーベキュー



障害飛越

害馬術)や、馬を正確に美しく演舞させる「馬場馬術」など様々です。

馬術部に所属している部員の大半は馬術を大学から始めました。中には運動部に所属するのが初めてという部員もいましたが、コーチや先輩が丁寧に指導してくれるので心配なく楽しんで活動しています。

馬に乗ってみたい方、動物と触れ合うのが好きな方、山梨の自然に触れたい方、体を動かすのが好きな方、大学で何か新しいことを始めてみたい方はぜひ馬術部に来てみてください!馬に乗って走るのはとっても楽しいですよ。また、親交を深めるため、馬術以外の様々なレクリエーションも行っています。この記事を読んで少しでも興味を持ってくださった方はTwitter@uoy\_bajyutubuで連絡をお待ちしています!

## Table tennis Club Medical Campus 医学部卓球部

見た目よりも奥が深いスポーツ  
卓球の魅力を伝えたい!

こんにちは、医学部卓球部です。現在は男子プレイヤー17人・女子プレイヤー10人の合計27人の部員で、毎週火・木曜日の17時~19時、土曜日の9時~12時に医学部キャンパスの体育館で活動しています。少し前までは部員数が今の半分くらいでしたが、最近は、卓球未経験者が入部してくれたおかげで人数も多くなり、賑やかに練習しています!

大会後や学園祭などの打ち上げ、忘年会、



部員のみならず

OBOG会など、学年関係なく親睦を深められるような場が練習以外にも多くあるので、部員同士の仲が良く、普段の練習後のご飯でも学年を超えて楽しく交流しています。

私たちの部活には決められた練習メニューがなく、各々が自由に自分のやりたいことを練習します。実は卓球はかなり繊細なスポーツで、人によって球を打つ時の感覚が違い、1つのアドバイスが全員に通じるわけはありません。なので、いろんな人と教え合える環境をつくることで効率よく上達していこうと、時間を区切って、その度に相手を変え練習ができるように工夫しています。



試合にはシングルスやダブルスなど、いろんな種目で出場します

大学の部活はクラブチームとは違って指導者がずっと指導してくれるわけではないので、チームの成長のために一人ひとりが自主性を持って真剣に練習に取り組んでいます(もちろん、初心者には先輩が丁寧に教えますよ!)。今はコロナ禍でなかなか思うように部活動ができないこともありますが、練習や対外試合が従来通りできるようになることを信じて活動しています。

初心者・経験者問わずやる気がある方は大歓迎です! 気になった方は知り合いの部員やTwitter (@tt\_nashi\_med) にご連絡をお願いします!

## Tea ceremony Club 山梨大学裏千家茶道部

茶道は“総合芸術”  
おもてなしの心で、日本の伝統文化をもっと身近なものに。



お茶会で使用したお道具



お稽古時に点てたお茶とお菓子

たお抹茶です。

部員は現在6名で、週に1回、大学構内の和室にて活動しています。少ない人数ですが、部員同士の仲が良く、毎回楽しく活動しています。隔週で講師お二人をお招きし、

ご指導いただきながらお稽古に励んでいます。ひとつひとつ丁寧に教えてくださるので茶道初心者の方もご安心ください。また、私たちが使用している和室は、裏千家茶道部創設以来ずっと使われてきたもので、様々なお道具が沢山揃っています。普段の活動以外にも、夏のお茶会・大学祭での呈茶(お茶を点てて振舞うこと)・茶器づくりなどのイベントも行っています。クリスマスには部員みんなでプレゼント交換をするなど、和気藹々とした一面もあります。

「茶道」と聞くと、少し敷居が高いイメージ



一昨年の夏のお茶会



先生のご指導のもとお稽古に励む

を持つ方が多いかもしれませんが、茶道はどんな人に対しても“おもてなしの心”を重んじる文化です。一週間の終わりの金曜日、お茶とお菓子とともに季節を感じながらゆっくりと流れる時間を楽しみませんか?是非一度、気軽に茶道の世界を覗いてみてください。少しでも興味がある方、ご連絡いつでもお待ちしております。

Twitter (@nashi\_urasenke)

## IFMSA-Yamanashi 国際医学生連盟山梨支部

医療者を目指す学生として山梨から世界へ  
~発信する! 繋がる!~



留学生たちとほつたらかし温泉へ!(2018年度) クロアチアへ基礎研究の交換留学(2018年度)



こんにちは、IFMSA-Yamanashi です! IFMSA と聞くと馴染みがないかもしれませんが、141 の国と地域が加盟する国際 NGO の国際医学生連盟(International Federation of Medical Students' Associations) のことで、私たちはその山梨支部になります。

IFMSA-Yamanashi は交換留学を扱う「Exchange」、性教育を推進する「SCORA」、公衆衛生を周知する「SCOPH」という3つの小団体から構成されています。

まず、「Exchange」は医学生を対象として臨床又は研究に關した交換留学を行ってい

ます。活動は①海外からの医学留学生を梨大に受け入れ交流する Incoming と、②臨床または研究の内容で海外に医学留学をする Outgoing です。①は多彩な国々から山梨を訪れた医学生たちと色々な話題について英語で深く語り合えるので、見聞が広まり英語力も鍛えられます。また、休日に仲良くなった留学生と県内の名所を巡るなど国際的な交友関係も広がります!②は海外病院での実習ができる貴重な留学体験を味わうことができます!

「SCORA」は性教育を行う際に必要な知識や伝え方を習得し、高校生などに対して実際に性や生殖に関するワークショップや講義を行うのが主な活動です。「SCOPH」では夏と冬に保育園を訪問してぬいぐるみを使ったお医者



保育園を訪問して「早寝早起き朝ごはん」をテーマに自作の劇を披露!

さんごっこや寸劇を通して子どもの病院きらいをなくす「ぬいぐるみ病院プロジェクト」を通じて保健教育を行っています。「医療者として同世代や子どもたちにどう伝えるか」を自ら積極的に考えて行動するのが、この2つの団体の特徴であり魅力だと思っています。

医学生として自分に何ができるのかを考え、積極的に動きたいという皆さん、梨大医学部に入ったらぜひ一緒に IFMSA-Yamanashi で活動しましょう!



性教育に必要な知識と伝え方を学びます

## NEWS &amp; TOPICS 1

## 全国初! (一社)大学アライアンスやまなしが大学等連携推進法人に認定

令和3年3月30日、本学と山梨県立大学が共同で設立した「一般社団法人 大学アライアンスやまなし」が全国初となる「大学等連携推進法人(※1)」の認定を受けました。

本学は、令和元年度より県立大との連携を強化しており、これまでも合同集中講義の開催、FD・SDの共同実施、事務職員の人事交流や共同調達など、教育分野に限らず幅広い分野において連携事業を展開してきました。

この度の認定により、令和3年4月より教学上の特例措置を活用して、教養教育分野において「連携開設科目」を開設することが可能になりました。具体的には、本学の学生が県立大の「社会と政治」、「社会と法」や「人間と文化」、「人間と芸術-文学」といった社会科学・人文科学分野の科目等を履修することができるようになり、学士課程

では30単位を上限に卒業単位に含めることができます。

本学では、今後も県立大との連携を強化し、多様な事業を実施する予定です。

※1 “大学等連携推進法人”とは、大学間の連携を推進し、質の高い高等教育を実現するため、一定の基準に適合した一般社団法人に対して、文部科学大臣が認定するものです。



看板上掲式 (左から清水一彦 県立大学長、島田学長、早川正幸 理事・副学長) 令和3年3月30日撮影当時

## NEWS &amp; TOPICS 2

## 本学認定第1号!

## 大学発ベンチャー企業の設立と認定に伴う称号記授与式を挙



島田学長(左)が岡澤教授に認定証を授与

令和3年3月17日、大学発ベンチャーの本学初となる認定に伴う称号記授与式を挙

行しました。大学発ベンチャーは、大学に潜在する研究成果を掘り起こし事業化することを目指すもので、本学では令和2年に大学発ベンチャーの認定制度を定め、起業や事業化支援に向けた取り組みを進めてきました。今回新たに設立された「ダイバーテクノロジー株式会社(代表取締役:岡澤重信工学部機械工学科教授)」は今後、次世代自動車の安全設計ソリューションを提供することを手始めに事業展開を進め、デジタル技術によるあらゆるモノづくり革新に貢献していきます。

## NEWS &amp; TOPICS 4

## 日本初・山梨発! 燃料電池電動アシスト自転車試作機完成披露式を挙

令和3年5月31日、本学燃料電池ナノ材料研究センターにおいて、「燃料電池電動アシスト自転車試作機完成披露式」を挙

行しました。この事業は、国産の燃料電池を電源とする電動アシスト自転車を日本で初めて制作したものです。文部科学省「地域イノベーション・エコシステム形成プログラム」として採択を受け、本学・山梨県・民間企業との協働で行っている、「水素社会に向けた『やまなし燃料電池バレー』の創成」事業の一環として実施されました。

披露式では、飯山明裕燃料電池ナノ材料研究センター長・佐藤幸徳日邦プレジジョン(株)常務執行役員が開発した電動アシスト自転車の解説を行いました。

今回試作された電動アシスト自転車は、1.1リットルの高圧水素ボ

## NEWS &amp; TOPICS 3

## あつまれどうぶつの森

## 「かいのくに しんげん島」の制作に教育学部の学生が協力



かいのくにしんげん島 (夢番地:DA-0360-6676-5266)

山梨県が主体となり実施された戦国武将 武田信玄公生誕500年記念イベントあつまれどうぶつの森「かいのくに しんげん島」の制作に教育学部の学生が協力

しました。「あつまれどうぶつの森(あつ森)」は、家庭用ゲーム機「ニンテンドースイッチ」の人気ソフトで、ゲームプレイヤーが無人島の住人となり、家や道路などを自分好みにデザインしたり、他のプレイヤーがデザインした島を訪問したりして楽しむゲームです。

今回、あつ森を活用して信玄公の功績や山梨県の魅力を広く発信するために編成された「あつ森デザインチーム」に、井坂健一郎教育学部芸術身体教育コース教授の研究室所属学生を中心に、計4名の学生が参加しました。学生らはアイデアや改善点を話し合いながら信玄公祭りの様子や武田神社、甲府駅などを再現した「かいのくにしんげん島」を完成させました。



お披露目された電動アシスト自転車(後部の箱が電源となる燃料電池)

今後は県有地等での実証実験に向け、燃料電池の小型化や電動アシスト自転車の改良を進めていく予定です。

ンベ1本で約100kmの走行が可能で、一般的なバッテリー式の電動アシスト自転車と比べて走行距離が長く、災害時には非常用電源としても利用可能なことが特徴です。

## NEWS &amp; TOPICS 5

## 新型コロナウイルス感染症により医療のひっ迫が続く大阪府への看護師派遣 ~山梨大学緊急シンポジウム「コロナ感染最新情報-大阪派遣看護師の報告と山梨の今後」の開催~

本学附属病院では文部科学省の看護師派遣要請に基づき、令和3年4月19日から6月28日までに新型コロナウイルス感染症(COVID-19)により医療のひっ迫が続く大阪府へ12名の看護師を派遣しました。

令和3年5月14日には、医学部キャンパスにおいて、1人目の派遣者となった山本雅弘看護師と2人目の派遣者となった田中大登看護師がそれぞれ帰院したことから、両看護師が持ち帰った大阪府の深刻な現状や治療の知見を共有するため、山梨大学緊急シンポジウム「コロナ感染最新情報-大阪派遣看護師の報告と山梨の今後」を開催し、本学の医療スタッフ・医学部教員及び学生等が参加しました。

シンポジウムでは、5月1日から7日まで、現在大阪府内で最もコロナ重症度の高い患者の医療を担っている関西医科大学総合医療センターの重症患者ICUで患者のケアや退院の準備などを受け持った田中看護師が、重症者の受け入れ要請が相次ぎ、病床確保のため体外式膜型人工肺(ECMO)を積極的に使えないといった同センターの過酷な医療現場の状況について報告し、許容を超えた患者数によって看護師が業務に追われ、患者を個別に見る余裕がなかったと振り返りました。

また、4月20日から30日にかけて大阪コロナ重症センターで患者の介助や薬剤・呼吸の管理などの看護業務を担った山本看護師が、



報告する田中看護師



報告する山本看護師



総合討論の様子

## NEWS &amp; TOPICS 6

## 山梨大学・読売新聞社共催「連続市民講座2021」知る喜び ~ひと・くらし・けんこう~

山梨大学では、読売新聞甲府支局と共催し、「知る喜び~ひと・くらし・けんこう~」と題した連続市民講座を開催します。

聴講は無料です。2021年4月~2022年3月の第3土曜日(11月のみ第2土曜日。1月は休講)、本学の教員が専門の分野を図解などを用いて分かりやすく解説します。今年度は、新型コロナウイルス感染症対策として、オンラインで開催しています。(今後の状況により、開催方法が変更となる場合があります。)

詳細は以下ホームページでご確認ください。

<https://www.yamanashi.ac.jp/social/378>

【日時・場所】

開催日: 第3土曜日(11月のみ第2土曜日。1月は休講) 時間: 午後1:30~3:00まで(午後1:00から接続可能)

受講料: 無料

【お問い合わせ先】

〒400-8510 甲府市武田4-4-37 山梨大学教務企画課連続市民講座担当 電話:055-220-8043 メール:koukai-kouza@yamanashi.ac.jp

## NEWS &amp; TOPICS 7

## UNIVERSITY OF YAMANASHI WEB OPEN CAMPUS 2021



山梨大学では、WEBオープンキャンパスと対面実施のオープンキャンパスを同時開催します!

WEBオープンキャンパスでは、皆さんの疑問に入試担当の教員が直接対応するWEB進学説明会など様々なコンテンツを用意しています。ぜひ本学Webサイト特設ページをご覧ください。





## 山梨共立グループ採用募集中

無差別・平等の医療で地域のニーズに誠実にこたえる  
プロフェッショナルを養成します。

病院・職場見学やインターンシップも随時受付中！

医療職を目指す方は  
採用サイトをチェック！

*Check Here!*

山梨共立グループの  
働き方がここに！  
recruitkyouritsu.com



## 山梨中央銀行

このカード、お買い物に便利です。  
口座から即時引き落とし、チャージ不要の現金レス。

【山梨中銀 Visa デビット】

# MyDebit



山梨中銀 Visa デビットの  
お申込みはこちらから▶▶



学生の今がチャンス!!  
満23歳まで  
年会費無料!

<年会費について>

年会費請求月の前月末時点で満23歳  
以下のお客さまは年会費無料です。以  
降年会費1,100円が必要となりますが、  
一定の条件により無料となります。

(2021年6月1日現在)

今号の表紙

山梨大学赤レンガ館



文化庁登録有形文化財に指定されている赤レンガ館は、戦  
時中の食糧庫として明治42年に使用が開始されました。  
山梨県最大規模のレンガ建造物を誇り、現在は資料館とし  
て教育学部に関わる資料を保管・展示しています。

編集後記

梅雨が明け、いよいよ夏本番となる季  
節。山梨大学の取り組みや頑張る学生  
の姿を載せた「山梨大学広報誌Vine39号」を皆様へ  
お届けします。

今回、教育学部の教員養成を紹介するにあたり、学生  
にインタビューをしました。学校の先生になるという高い  
志を持って勉学に励む学生の姿は頼もしく、授業や教育  
ボランティアで出会った児童・生徒の話をする姿は、親身  
になって寄り添い、成長を喜ぶ教育者そのものでした。

本学には、今回ご紹介した「教育学部」の他に「医学  
部」、「工学部」、「生命環境学部」があります。最先端の  
教育・研究・医療を推進し、新しい時代を切り開く各分野  
のリーダーや研究者を育成するとともに、その様子をVine  
などを通して皆様にお伝えします。 (広報企画室)

山梨大学広報誌 **ヴァイン**

2021  
vol.39  
July

【本誌に関するご意見・お問い合わせ先】

山梨大学総務部総務課広報企画室

TEL:055-220-8006

FAX:055-220-8799

E-Mail:koho@yamanashi.ac.jp



公式HP



公式Twitter



**有料広告募集します。**

山梨大学広報誌Vineに「広告」を出しませんか？

広報Vineは、毎年2回、全国の教育機関等に配布しています。  
ぜひ、貴社の広告、PR活動にお役立てください。

詳しくは、本学ホームページの  
[http://www.yamanashi.ac.jp/about/29620]をご覧ください。

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

